

防衛山口

— 第65号 —

令和元年9月30日

発行：山口県防衛協会 印刷：株式会社マルニ



水陸両用車AAV7



山口県防衛協会に関する各種情報については、ホームページにアクセスしてください

<http://www.y-defense.jp/>



第五十六回定期総会を開催

山口県防衛協会(会長 清原生郎)

は、去る六月十三日、山口市内のホテルニュータナカで第五十六回定期総会を開催した。

本総会には県知事代理(総務部次

長松岡正憲)様、航空自衛隊防府南

基地司令(一等空佐小林 努)様を

はじめ県下基地司令等多数のご来賓

の列席のもと県下各地から約百名が

出席し、平成三十年度事業報告及び

収支決算報告、平成

三十一年度事業計画

(案)及び予算(案)、

役員選出(案)につい

て各議事が承認され

た。

役員改選では、理

事に木村正人氏、西村

方志氏が就任されまし

た。また、永年山口県

防衛協会会長、顧問

を歴任された田中耕三

氏が退任されました。

総会に続き、ジャー

ナリスト櫻井よしこ氏

による「今、日本が直

面する内外の課題」と

題しての講演会が一般

市民を含み約四百名

の聴講で盛会裡に修了

した。

第五十六回定期総会における清原生郎会長挨拶文

本日は、山口県防衛協会第五十六

回定期総会のご案内を申し上げます

たところ、山口県知事 村岡嗣政様

代理 松岡総務部次長様、航空自衛

隊防府南基地司令 小林 努様始め、

県下陸海空自衛隊各基地司令殿ほか、

数多くのご来賓の皆様のご臨席を賜

り、誠に有難うございます。心より

御礼を申し上げます。

また、会員の皆様に於かれまして

も、県下各地から沢山のご出席を賜

りましたこと、深く感謝を申し上げ

ます。

お陰様で、平成三十年度の当協会

事業も滞りなく推進できましたこと

を、先ずもつてご報告申し上げます。

これもひとえに、会員の皆様の熱意

とご協力の賜であると、心から敬意

を表するとともに、感謝を申し上げ

る次第であります。

さて、我が国は三つの核保有国、

中国・ロシア・北朝鮮に囲まれてい

ます。そしてその三国とそれぞれに、

解決の糸口さえ未だ見出せない安全

保障上の問題を抱えています。

我が国固有の領土である尖閣諸島

周辺の領海を、中国海軍の配下に入っ

た中国公船が頻繁に侵犯する。ロシ

アとは北方領土の返還問題。朝鮮半

島は拉致問題を抱える北朝鮮のみな

らず、韓国軍艦船の海自哨戒機への

管制レーダー照射という、朝鮮半島

全体の不確実性の問題があります。

我が国の同盟国である米国と北朝鮮

の核全面廃棄に関する米朝首脳会談

の不調、或いは米中の経済的・軍事

的対峙の深刻化などをみますと、我

が国を取巻く安全保障環境は益々予

断を許さない厳しい状況にあるとい

えます。

当協会といたしましては、会員の

皆様とともに、微力ながら県内所在

の自衛隊への支援活動と県民の皆様

への防衛意識の普及活動を、従前

も増して強力に推進して参る所存で

あります。同時に憲法改正の議論を

広く興し、来るべき憲法改正のため

の国民投票に備えることも、取り組

むべき課題だと考えます。各支部に

於かれましても、格段のご努力をお

願いするところであります。

当協会の現況は、会員の高齢化が

顕著で、会員の数も減少している状

況にあります。青年部会・女性部会

を含め、会員の増勢に努め、会勢の

役員名簿

R1.6.25現在
敬称略・順不同

名 称	役 職	氏 名
会 長	関門港湾建設(株) 代表取締役社長	清 原 生 郎
副 会 長	宇部興産(株) 常務執行役員	野 嶋 正 彦
〃	(株)トクヤマ 取締役会長執行役員	楠 正 夫
〃	(株)ミヤベ 取締役会長	宮 部 隆 幸
理 事	山口トヨタ自動車(株) 代表取締役社長	齋 藤 宗 房
〃	山口日産自動車(株) 代表取締役会長	末 富 喜 昭
〃	新光産業(株) 代表取締役社長	古 谷 博 司
〃	(社)山口県隊友会 会長	高 橋 佳 嗣
〃	(社)自衛隊家族会山口県自衛隊家族会 会長	三 浦 忠 廣
〃	山口市自衛隊協力会 会長	大 塚 正 昭
〃	防府地区自衛隊協力会 会長	島 田 教 明
〃	岩国地区自衛隊協力会 会長	沖 本 旭
〃	下関基地隊協力会 会長	山 本 徹
〃	小月基地協力会 会長	岡 村 俊 雄
〃	周南地区自衛隊協力会 会長	藤 井 英 雄
〃	萩市自衛隊協力会 会長	尾 河 哲 彦
〃	長門市自衛隊友の会 会長	辻 野 史 朗
〃(下 関 支 部 長)	日新運輸工業(株) 代表取締役社長	松 浦 秀 子
〃(山 口 支 部 長)	協同(株) 代表取締役	木 村 正 人
〃(岩 国・柳 井 支 部 長)	(株)丸吉商店 代表取締役社長	吉 良 昭 治
(宇部・山陽小野田・美祢支部長)	山口県議会議員 (株)ケイエフコーポレーション 代表取締役	二 木 健 治
〃(防 府 支 部 長)	(株)防府鉄工所 代表取締役社長	松 下 文 二
〃(周 南 支 部 長)	(株)群栄建設 代表取締役	西 村 方 志
(萩・長門・阿武支部長)	協和建設工業(株) 代表取締役会長	田 村 充 正
〃(女 性 部 会 長)	山口県連合婦人会 理事	貝 森 澄 代
〃(青 年 部 会 長)	(株)桑華苑 代表取締役	中 谷 泰
監 事	(株)西京銀行 代表取締役副頭取	金 丸 眞 明
〃	萩山口信用金庫 理事長	小 田 村 哲
(事 務 局 長)	(株)山口銀行 専務執行役員山口支店長	尼 田 剛

充実発展についても皆様方の更なるご協力をお願い申し上げます。ありがとうございます。

結びになりますが、県下所在の各

自衛隊に於かれましては、国家防衛という崇高な任務遂行のため、厳正な規律のもと、更なる研鑽・精励に

よう、衷心よりご祈念申し上げますとともに、本日ご来臨賜りました皆様の益々のご健勝、ご多幸、併せて当協会の益々の発展と会員の皆様方

のご活躍をお祈り申し上げます。の挨拶とさせていただきます。本日は誠に有難うございました。

防衛講話

「今、日本が直面する内外の課題」

ジャーナリスト

櫻井 よしこ氏

山口県防衛協会の第五十六回定期総会が六月十三日開催され、総会後に同協会（会長 清原生郎）が主催で、ジャーナリスト櫻井よしこ氏の講演会が山口市内のホテルニュータナカで「今、日本が直面する内外の課題」と題して講演し、約四百人が聴講した。

香港で起きた大規模な衝突や台湾情勢などを解説。背景にある中国の動きやアメリカの変化などに注視することも促した。日本が国際社会で活躍するためには憲法9条改正の必要性があることも強調。

多くの人に国防に関する理解を深めてもらおうと開催し、盛会裡に終了した。



女性部会総会を開催

山口県防衛協会女性部会（会長貝森澄代）は去る四月二十三日山口市内のホテルで定期総会を開催した。

当日は六十名の参加の下、定期総

会から始まり来賓の自衛隊山口地方協力本部長（一等空佐川名孝幸氏）から県内外の陸・海・空自衛隊への支援及び募集協力、山口県防衛協会事務局長（尼田 剛氏）から女性部会の活動を引き続き県内外の陸・海・空自衛隊の部隊研修参加及び慰問・激励行事等を通じて今後一層の会勢の充実発展にご尽力いただくよう挨拶があった。

引き続き、平成三十一年度事業報告及び平成三十一年度事業計画（案）について満場一致で承認された。役員の変更であります。現役員で改選はありません



んでした。

続いて、防衛講話に移り自衛隊山口地方協力本部長（一等空佐 川名孝幸氏）による「自衛隊の災害派遣について」と題しての講演があり、改めて自衛隊についての認識を深め、女性部会の定期総会を盛会裡に終了した。

新着任司令の挨拶



海上自衛隊第三十一航空群司令

海将補 大西 哲

本年四月一日付で海上自衛隊第三十一航空群司令を拝命し、防衛省海上幕僚監部監察官から着任しました大西です。岩国勤務は初めてであり、着任以来、豊かな自然に囲まれた歴史と伝統ある岩国市、山口県で勤務できることに喜びを感じるとともに、折々には地域の皆様方の温かい心に触れる機会をいただくなど、恵まれた環境で勤務させていただいていることに日々感謝しているところです。

清原会長はじめ山口県防衛協会の皆様には、日頃から防衛省・自衛隊に対しまして深いご理解と多大なるご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、我が国周辺の情勢に目を転じますと、我が国を取り巻く安全保障環境は、極めて速いスピードで変

化しており、既存の秩序をめぐる不

確実性が增大しています。また、宇宙・サイバー電磁波といった新たな領域の利用の急速な拡大は、これまでの国家の安全保障の在り方を根本から変えようとしています。このような情勢の中、自衛隊は各種任務に従事しつつ、平素からいかなる事態にも対処できるよう精強な部隊の練成に努め、即応態勢を維持しております。我々第三十一航空群は、海上自衛隊航空部隊の中でも洋上救難、情報収集、訓練支援等の他にはない独特の任務・機能を持つ部隊であり、多様な種類の航空機と強い使命感をもって、地政学的にも重要なこの地において、日々緊張感をもって各種の任務・待機等を実施しております。また、岩国航空基地は、昭和十三年の旧帝国海軍

の飛行場建設開始以来、八十年以上にわたり地域の皆様のご理解をいただきながら、この地に所在して参りました。現在は、海上自衛隊と米海兵隊及び米海軍との日米共同使用の基地となっておりませんが、この八十有余年の歴史を胸に、我々第三十一航空群の隊員一同は「地域とともにある部隊」として勤務し、積極的に地域の皆様との交流を図っております。

山口県防衛協会の皆様には、引き



航空自衛隊航空教育隊司令

一等空佐 小林 努

兼ねて防府南基地司令

の飛行場建設開始以来、八十年以上にわたり地域の皆様のご理解をいただきながら、この地に所在して参りました。現在は、海上自衛隊と米海兵隊及び米海軍との日米共同使用の基地となっておりませんが、この八十有余年の歴史を胸に、我々第三十一航空群の隊員一同は「地域とともにある部隊」として勤務し、積極的に地域の皆様との交流を図っております。

平成三十年九月二十八日付で航空自衛隊航空教育隊司令兼ねてを拝命いたしました小林です。山口県防衛協会の皆様には平素から防衛省自衛隊に対しまして格別のご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。山口県での勤務は初めてでございますが、歴史の舞台に縁の深いこの地で勤務できることに大変な喜びを感じております。着任してすぐの昨年十月には周防大島の断水事案に対する給水支援により県民の皆様のため

続き変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げますとともに、会員の皆様方のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。

(経歴)

昭和四十二年一月二十二日生
海上幕僚監部装備体系課 航空機体系班長
第五航空隊司令
統合幕僚監部運用第三課
第五航空群司令
海上幕僚監部 監察官
防大 神奈川県出身

く思う一方で、着任以降の一年間に会員の皆様から頂いた多大なるご支援、ご厚情に触れるにつけ、逆に我々自衛隊は地域の皆様を支えられているとの思いを益々強くしております。さて防府南基地の創隊以来六十五年の間、この防府の地において航空自衛官の教育の任に当たって参りました。この四月に入隊してきた第十六期自衛官候補生六百七名、第十三期一般空曹候補生四百十三名は約3か月の教育訓練を終了し、小野七月に無事全国の航空自衛隊の部隊

等に赴任していきました。さらに九月上旬には第十七期自衛官候補生約二百名の入隊いたしました。

昨年末新たな防衛計画の大綱が示され、その中で我が国は宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域を組み合わせた領域横断作戦を遂行するための「多次元統合防衛力」を構築することとされ、今後更に新たな装備品等が導入されてくることになりま

す。しかしながらその成否は組織の根幹をなす「人」の育成にかかっていると私は確信しております。



海上自衛隊下関基地隊司令

一等海佐 佐藤 恭弘

清原会長はじめ山口県防衛協会の皆様には、平素から自衛隊の活動に對しまして深いご理解と暖かいご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

私は昨年十二月、横須賀の艦艇開発隊司令から炎色に着任しました。山口県防府市に実家がありますが、父の勤務の都合で柳井市及び大島郡(当時)で育ち、柳井高校を卒業しました。以来三十五年目にして、初め

人材の育成に一丸となつて取り組んで参る所存でございますので、引き続き変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、山口県防衛協会の益々のご隆盛と会員の皆様のご活躍を祈念しご挨拶とさせていただきます。

(経歴)
昭和三十九年十月九日生
第2補給処十条支所長兼十条基地司令
装備施設本部 航空機第2課長
防衛装備庁調達事業部 航空機調達官
防大 岐阜県出身

て山口県所在部隊に着任し、指揮官という立場で故郷の防衛・警備の任に当たることができ、大変光栄に感じているところです。

私は隊員に対して二つのことを要望しております。その一つは「備え」です。近年の我が国を取り巻く安全保障環境は大変厳しく、大陸及び半島に近い山口の地にある当隊としても、その脅威に備えなければなりま

せん。また、近年激甚化している災害に對する備えも重要です。当隊では防衛・警備に関する訓練に加え、災害に備えるため、より実効性のあ

る災害対応について研究をしているところです。
要望の二つ目は「百万一心」です。毛利元就公の言葉ですので多くの方がご承知のことと存じますが「百万…二日一力」、すなわち隊員一人ひとりが毎日を大切にして全力で職務にまい進し「一心」、すなわち皆が心をついにすれば、成し遂げられないことはない



航空自衛隊第十二飛行教育団司令

兼 兼て防府北基地司令

一等空佐 樋口 達巳

皆様、はじめまして。今年四月二十三日付けで航空自衛隊第十二飛行教育団司令兼て防府北基地司令を拝命いたしました樋口です。まず

は山口県防衛協会の皆様方には、平素から防衛省自衛隊に對して格別のご理解とご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。今回、貴重な機会を頂きましたので、着任のご挨拶をいたします。

地域住民の方々の生命・財産を守るため、下関基地隊総員の力を結集して任務を遂行する所存であります。

防衛協会会員の皆様には今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますことをお願い申し上げます。着任のご挨拶とさせていただきます。

(経歴)
昭和三十九年十月十日生
護衛艦しまゆき艦長
護衛艦さきしま艦長
誘導武器教育訓練隊司令
艦艇開発隊司令
防大 山口県出身

私は熊本県の出身で、航空自衛隊の操縦者を志し、昭和五十九年に航空学生として防府北基地に入隊しました。各種教育訓練を経て、操縦士の資格を取得後、築城、小松、新田原、千歳等の各航空基地でF4、F15の操縦士として対領空侵犯措置等の任務に従事してきました。また、操縦士の証である「ウイングマーク」を授

与する浜松基地では飛行隊長として勤

務いたしました。飛行部隊以外については、航空総隊司令部、西部航空方面隊司令部、航空幕僚監部、北部方面隊司令部において幕僚として勤務した経験もあります。

ここ防府北基地は、航空自衛隊の全てのパイロット学生が初めて足を踏み入れる二丁目一番地、登竜門です。とりわけ航空学生にとって、防府は心の拠り所伴っています。

指導方針は、より高みを目指すことを意味する「AIM HIGH」このための要望事項を「明るく、前向きに、感謝の気持ち」とし、真に強く逞しい操縦者の育成を目指しています。併せて、学生に対して「思い描いた夢は必ず実現させよ」と要望しています。

防府北基地・第十二飛行教育団は、



海上自衛隊小月教育群司令

一等海佐 井上 竜 三

山口県防衛協会の皆様におかれましては、平素より防衛省・自衛隊並びに海上自衛隊小月教育群に対するご理解とご協力、心温まるご支援を賜っておりますことに、衷心より厚く御礼申し上げます。

国民の皆様のご期待とご信頼に添い、ニーズにしっかりと応えるべく隊員一丸となって知恵を絞り、一層、現場力を高めていく所存です。今後とも引き続き皆様方からの変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後となりますが、山口県防衛協会のみならずのご発展と会員の皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、着任のご挨拶とさせていただきます。

(経歴)

昭和四十年一月二十五日生

航空幕僚監部運用支援課

北部航空方面隊司令部 防衛課長

第十二飛行教育団 航空学生教育群司令

航空幕僚監部 運用支援調整官

航空学生 熊本県出身

平成三十年十一月三十日付で第三十六代小月教育群司令を拝命いたしました。ここ小月は、ご承知の方も多いと存じますが、海上自衛隊の航空部隊の固定翼・回転翼航空機の全ての操縦士、戦術航空士が搭乗員

としてその第一歩を刻む基地です。幹部候補生学校を卒業してくる幹部学生は勿論のこと、高校卒業後に入隊してくる航空学生は、三年以上の年月をこの地で訓練し、その後、自身の機種に応じた訓練を他基地で重ねた後に、黄金に輝くウイングマークを胸に全国の航空部隊に配属されて活躍することになります。

そんな彼らが部隊で活躍する際に、搭乗員の心の故郷として思いを馳せるのが小月であり、実際に、私の隸下に四つの部隊がありますが、その指揮官の配偶者が全て山口県出身であるように、山口県が第二の故郷となっている隊員も少なくありません。私自身は、山口市小郡町の出身で、二十五年前に操縦訓練を受けて以来、久しぶりに山口の地に戻ってきました。明治維新だけでなく、日明貿易で繁栄した大内文化の歴史的遺産が随所にあり、三方を海に囲まれた風光明媚で海の幸、山の幸に恵まれた山口県の良好な環境下において、海上航空部隊の将来を担う若鷲(旧帝国海軍や海上自衛隊では、航空部隊の搭乗員の若者を若鷲と呼んでいます)たちがその翼を羽ばたかせる訓練をできることは、単に操縦技術を習得するだけでなく、他基地では学べない

多くの経験を得ることになります。

部隊で活躍している彼らの先輩達は、日本周辺海域の情勢変化を把握するため、24時間365日、P-1、P-3Cで日本周辺海域で飛行し、また、護衛艦からSH-60Kを発艦させて、それぞれ機上から警戒監視で船舶を一隻一隻目視で確認しています。また、遠くソマリア沖アデン湾では、P-3Cや護衛艦による海賊対処行動により付近を航行する船舶等の護衛に従事してくれています。

将来、日本の安全を直接その双肩で担うことになる若鷲たちを今後も温かく見守っていただき、海上自衛隊小月教育群に対する皆様からのご高配を引き続き賜りますようお願い申し上げます。

最後に、山口県防衛協会の益々のご隆盛と会員皆様のご健勝並びにご多幸をお祈り申し上げますとともに、我が国が平和で明るくさらに発展していくように祈念申し上げます。

(経歴)

昭和四十二年六月六日生

第一航空隊司令

第一航空群首席幕僚

海上幕僚監部情報公開・個人情報保護室長

防大 山口県出身

防衛協会会員募集について

■目 的

本会は、我が国の独立と平和、国民の生命と財産を守ることを基本に防衛意識の普及を図り自衛隊及び関係団体の健全な育成発展に協力することを目的に昭和39年に設立以来、県民に対する防衛思想の普及、防衛の最前線を担う自衛隊に対する激励支援等幅広い協力支援活動を推進しています。

■事 業

- 郷土に関する研究、講演会
- 国土防衛及び防災に関する研究、講演会
- 部隊施設等の見学
- 防衛意識普及に関する諸広報
- 県下自衛隊の諸行動に関する支援、協力
- 隊員に対する激励、慰問並びに除隊者の就職援護
- 自衛隊関係団体の育成強化

■会費の種別

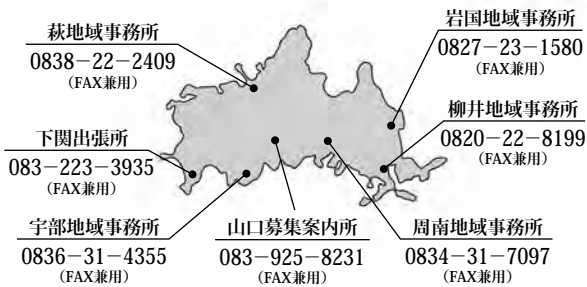
本会の趣旨に賛同する法人、団体及び個人

法 人	1口以上	年額	15,000円以上
団 体	1口以上	年額	3,000円以上
個 人	1口以上	年額	2,000円以上



あなたのお近くの地域事務所は？

自衛隊山口地方協力本部
TEL 083-922-2325
FAX 083-922-2303



自衛官等募集



詳細・資料請求は「自衛隊山口地方協力本部または最寄の募集事務所」にて

<http://www.mod.go.jp/pco/yamaguchi/>
TEL(083)922-2325
FAX(083)922-2303



事務局だより

※会員増勢について
ご協力をお願い

当協会は、設立以来、災害派遣中の自衛隊の慰問、新入隊員激励、隊員募集協力等の支援活動を行うほか、機関紙の発刊、防衛講演会や部隊研修並びに隊員激励等を通じ、防衛思想の普及に努めております。

このような中で、当協会の会員の方々が高齢化が進んでいるため会員数が減少している傾向にあります。当協会では一層の会勢拡大に努める必要があると考え、会員の増強について会員皆様方のご協力を是非ともお願いいたします。

国際貢献に従事する自衛隊隊員に対する激励活動を含め、事業の内容を更に拡大・充実させたいと存じます。一人でも多くの皆様のご入会が国家・社会への一つの貢献となります。会員の皆様方に、会の趣旨をご理解戴ける方々の勧誘又はご紹介をお願いいたしますと存じます。

年会費は

法人会員 一五、〇〇〇円以上
団体会員 三、〇〇〇円以上
個人会員 二、〇〇〇円以上

尚、令和元年度会費をまだお振込頂いていない会員の方は、会費の納入をよろしく願います。

山口県防衛協会に関するお問い合わせについては左記までご連絡下さい。

TEL 083-922-1790